

第34回 田善顕彰版画展

《田善賞 小学生の部》

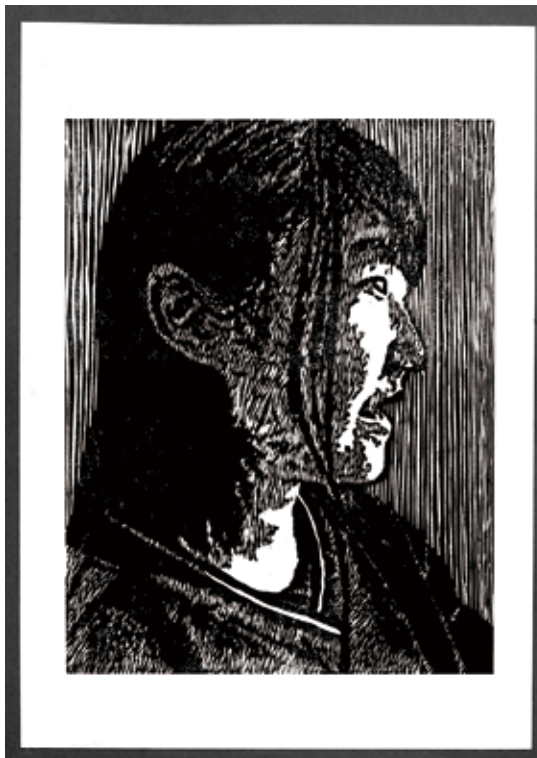


「なんだアレは？」

須賀川市立第二小学校 4年 田畔 日向

《講評》
木版画を始めて間もない4年生なのに、彫刻刀の特徴を生かした技法表現が優れています。それに、観察している表情も面白く、上手に心を込めて表されました。

《田善賞 中学生の部》



「笑顔の友達」

須賀川市立長沼中学校 1年 添田 亜衣奈

《講評》
友達の笑顔が輝いているように表現されています。そして、豊かな感性が感じられます。特に彫刻刀の使い方が上手です。例えば、黒くて細い線の表現と、頭部の黒い面の表現は版画の特徴を十分に活かしたものです。

第34回 田善顕彰版画展

《最優秀賞 小学生の部》



「みんなで鳴けばこわくない！」
須賀川市立小塩江小学校 3年 熊田 結菜

《講評》紙版画の特徴を活かして、素材や紙を重ねることで生まれた動物一匹ずつの表情が、名場面を上手に切り取って印象に残る作品です。動物の輪郭の淡さが、夜の風景とメルヘンな雰囲気を描写していて素敵です。

《最優秀賞 小学生の部》



「大きいなあ」
須賀川市立柏城小学校 4年 小林 瑛祐

《講評》ヘチマを栽培観察している場面を正面から描き、ヘチマを大きく表した構図が上手くいっています。人物の表現に刃を細かに使っているところにも小林さんの表現への工夫が見られます。

《最優秀賞 中学生の部》



「僕達はどう生きるか」
須賀川市立小塩江中学校 2年 吉田 蒼介

《講評》線描を中心とした版画で、描きたい内容にじっくり取り組み、考え込んでいる様子をととてもよく表現できました。特に顔の部分が成功したように思います。表現力あふれた作品だと感動しました。

《最優秀賞 中学生の部》



「映る私と連弾」
須賀川市立仁井田中学校 2年 吉田 心楚

《講評》ピアノに映る様子を描くことが独創的なアイデアであり、それを上手に表現することができた非常にレベルの高い作品です。遠近法なども使いながら細かいところまで良く表現されています。

第34回 田善顕彰版画展

《優秀賞 小学生の部》



「10才の私」

須賀川市立西袋第一小学校 4年 住吉 くるみ

《講評》4年生らしく大きな顔が、始めたばかりの木刃を上手に使って、力強く表情豊かに表現できました。優れた木版画作品です。

《優秀賞 小学生の部》



「鬼」

須賀川市立西袋第二小学校 2年 安田 優心

《講評》鬼の顔や手の表現において、様々なパーツと重ね合わせて表現されていて、紙版画の技法を上手に使った作品です。とがった牙や鋭い爪にこだわりを感じ、鬼の怖さが表現されていて面白い作品です。

《優秀賞 小学生の部》



「ねえねえ聞いた」

須賀川市立第二小学校 4年 白川 花帆

《講評》タイトル通り、友達と内緒話している様子が表情などから分かりやすく表現されています。指先や歯など細かいところも上手に表現されています。白と黒のバランスも良く、主題がはっきりしている点も良いです。

《優秀賞 小学生の部》



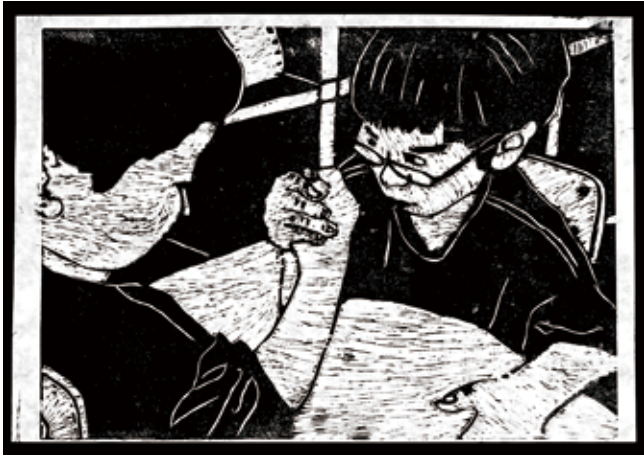
「最後のシュート」

須賀川市立柏城小学校 4年 渡辺 朝陽

《講評》顔の表情などからシュートを狙う瞬間がうまく表現されています。下からのアングルは独創的で、臨場感がある印象を受けます。手すりの表現など細かいところも工夫されている様子がうかがえます。

第34回 田善顕彰版画展

《優秀賞 小学生の部》



「勝ってやる」

須賀川市立第二小学校 4年 加古 拓也

《講評》顔の表情などからタイトルの「勝ってやる」という気持ちが伝わってくる作品です。手を組んだ指や顔にかかったメガネの様子など、細かいところまで表現に取り組んでいることがよく分かります。

《優秀賞 小学生の部》



「もちがのび〜る」

須賀川市立長沼小学校 5年 遠藤 叶夢

《講評》お餅を勢よく口に入れる表情が上手く表現されています。顔・口の白黒のバランスが良いです。題名と作品への想いが伝わります。

《優秀賞 小学生の部》



「みつけた！ヘチマ」

須賀川市立柏城小学校 4年 及川 和花

《講評》ヘチマの観察で、大きく育ったヘチマに感動している様子が、版画の特徴を活かし、動きある構図で上手に表現されました。特に細かな葉とヘチマにも力を注ぎ版木を彫っているところも上手です。

《優秀賞 小学生の部》



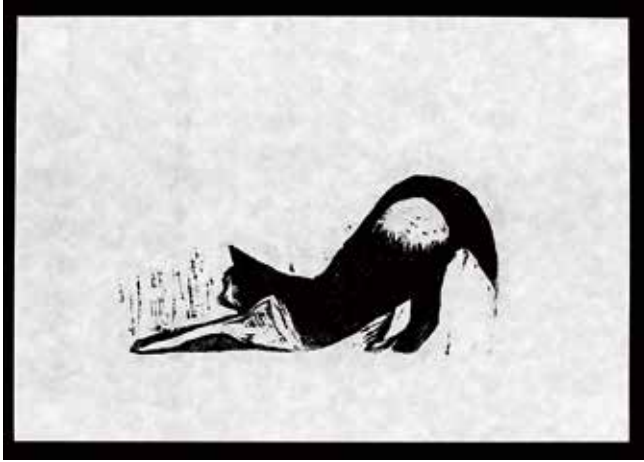
「うんとこしょ どっこいしょ」

須賀川市立柏城小学校 4年 小野寺 舞尋

《講評》ヘチマの葉、蔦が複雑に絡んだ様子が、細い線・太い線を使い分け版画らしい描画の作品です。一生懸命に伸ばした腕や、くしゃっとした顔の表現がまさしく「うんとこしょ どっこいしょ」といった感じが伝わってきます。

第34回 田善顕彰版画展

《優秀賞 中学生の部》



「黒猫」

須賀川市立岩瀬中学校 2年 藤田 優

《講評》白い紙の部分と墨の入ったバランスが特徴的で、より黒猫の存在感が際立ち、見る側の想像を掻き立てます。

《優秀賞 中学生の部》



「黒猫と薔薇」

須賀川市立大東中学校 2年 桐生 もも

《講評》太い線描だけでなく、バラの花びらは細かい線描とするなど、表現の使い分けによって繊細さが描かれ、ステんシルの淡さが相まった素敵な作品です。

《優秀賞 中学生の部》



「その先に……」

須賀川市立小塩江中学校 1年 吉田 悠也

《講評》安定している構図と彫りの細かさのバランスで今をリアルに表現できていると思います。構図を決める際の視点が良いです。

《優秀賞 中学生の部》



「いつもの笑顔」

須賀川市立第一中学校 1年 溝井 楓華

《講評》版を二色使い、より立体感がある作品に仕上がっています。彫っている段階で刷り上がる際のイメージが出来ているのでしょう。表情から学校生活の時間が上手く伝わってきます。

第34回 田善顕彰版画展

《優秀賞 中学生の部》



「ゲームセットのナイスボレー！」

須賀川市立仁井田中学校 2年 安藤 拓史

《講評》大胆な構図、遠近法が見る人を惹きつけます。ネットやラケット（ガット）の細かさ、リアルさがよりライブ感を増し、緊張感が伝わります。

《優秀賞 中学生の部》



「テニスのおとも」

須賀川市立仁井田中学校 2年 吉田 心咲

《講評》ラケットの色の濃淡やボールの陰影を意識的に表現していて、モノクロの中に様々な表情が見えてきます。ガットの影の線、砂利の点描など細部までドリアポイントに描写されている良い作品です。

《優秀賞 中学生の部》



「笑顔の友達」

須賀川市立長沼中学校 1年 菅野 隼人

《講評》友達の性格まで表現できています。彫刻刀を自由に使って、白い面、黒い面や太い線を豊かに描き分けられているところが上手です。

《優秀賞 中学生の部》



「大きな木」

須賀川市立長沼中学校 2年 佐藤 未空

《講評》大きな太い樹のもつ強さを見上げる視点で表現できています。特に上に伸びている太い枝の細かな彫りがとてもうまくいっています。